自　己　評　価　表　（令和3年度）

愛媛県立新居浜南高等学校

学校番号（6）

教育方針	個性豊かで広い視野を持ち、心身ともに健全な人間を育成する。	重点努力目標	1　主体的に学び、個性を磨き、自己実現に努力する態度を育成する。 2　挨拶等の礼儀や身だしなみを整え、基本的な生活習慣を育成する。 3　学校行事や部活動、奉仕活動の活性化により、心身を錬磨し、社会性を育成する。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策（意見）
①組織運営等	教職員間の共通理解	教育目標を達成するために、教職員間の共通理解を図り、円滑なコミュニケーションや連携・協力体制を構築する。気軽に話ができる場と機会を設ける。	C	教育目標を達成するため、教職員間の共通理解は概ね図られている。ただし、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の影響で、種々の行事等が中止・縮小され、日常の気軽に話ができる場面が不足した。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、各種行事が削減・縮小されたことは、生徒の教育活動においても大きな影響を与えたが、教職員のコミュニケーションや相互理解という点でも影響が大きかった。教職員の相互理解の場の確保等、工夫していきたい。 運営委員会や職員会議では、議事の区分（審議・連絡・確認・承認）を明確し、事前の各分掌間の調整により、時間短縮を図る。グループウェア等をさらに活用することで、効率的な審議や連絡を進めていく。 校長面接や定期的なアンケートは、教職員の声を聞くための有効な手段であり、その上に日常的な会話の場面を意識的に増やしたり、各準備室に直接足を運んだりすることで、コミュニケーションの強化を図りたい。 「ノー残業デー」を設けたり、相互の声掛けにより退庁しやすい雰囲気づくりを心掛け、さらなる働き方改革に取り組んでいきたい。 本校の特色である多種多様な学校行事や部活動、それに関連した各種大会が2年連続で規模の縮小や延期・中止されたものもあったが、そのような状況下でも規模や方法を工夫して実施できたものもあった。それらの経験を生かし、制限がある中でも「どうすれば」「どの程度までなら」をより吟味して、生徒の学校生活を充実したものになるように配慮したい。
	会議の効率化	運営委員会や職員会議、各種委員会の円滑化を図り、効果的に運営を実践する。グループウェアや校務支援システムなどを積極的に活用することで無駄を省き、スリム化を図る。	B	運営委員会や職員会議の終了時刻が勤務時間を超えてしまうこともあったが、関係者間の事前の打合せや議題の種別の確認により、少しずつ効率化を図ることができた。	
	危機管理意識の高揚	学校の安全管理に関する教職員の危機意識を毎月定例の職員会議において喚起する。	B	職員会議やグループウェアのメッセージ機能、マチコミ等を活用して、安全に関する情報提供や安全意識の啓発を行い、危機管理意識の向上を図った。	
	職場環境の整備	教職員の心身の健康に配慮された、能率よく勤務できる職場環境を整備する。教職員間の業務量の多寡を調整し、働き方改革を進める。超過勤務時間の多い教職員数の前年比50%減を目指す。 A：50%以上　B：40%以上　C：30%以上　D：20%以上 E：それ以外	C	教職員の心身の健康については、校長面接や日頃のアンケート、日常会話等を通じて、問題点を把握し解決するよう努めた。 働き方改革については、業務量の多寡を調整したものの、新型コロナウイルス感染症対策などで、うまくいかなかった側面もある。超過勤務時間の多い教職員(超過勤務が月80時間以上)は、対前年比で、約30%減少した。	
	南高満足度の向上	魅力ある学校づくりに努め、南高へ入学してよかったと思える生徒の増加を図る。学校評価アンケートでの評価を前年比10ポイント増を目指す。 A：10ポイント以上　B：8ポイント以上　C：6ポイント以上 D：4ポイント以上　E：それ以外	E	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で種々の行事が中止・縮小、または参加者の制限など、生徒や保護者にとって残念であった。学校のホームページを充実させることで情報発信に努めた。学校評価アンケートの評価は、対前年度比で＋1%。	
②教育課程・学習指導	教育課程の充実	各系列の特色を生かし、生徒の進路実現のために充実した教育課程を編成する。系列集会を月1回以上実施するなど、系列の特色をより鮮明にして、生徒の活動の場を設定する。	B	八つある各系列の特色を生かした教育課程を編成している。各系列における教育の充実や2年次生と3年次生の交流を図ったり、特色を出したりするために系列集会を新設した。	系列を中心とした学習の推進は、総合学科としての大きな特色であり、系列集会の導入に至った。今年度は、実施内容や取組について、系列間の温度差が見られたため、趣旨や実施内容を練り、充実させることでより良いものにしていきたい。 国公立大学への進学者を増やすなど、生徒の可能性を広げるような学習指導・進路指導を充実させていく。 「生徒一人一台端末」の活用について、教職員間に多少の温度差はあるものの、進捗状況はおおむね良好である。先行している若手教員を講師とした簡易な講習会を充実させることでGIGAスクール構想の実現を目指したい。 進路指導について、充実した個別指導を行うことができた反面、一部の教員に負担過多となる場面もあり、組織としての進路指導の在り方を構築したい。 生徒の授業に対する評価は高い。来年度以降も、ICT機器を積極的に活用するなど、さらに努力したい。 校内研究授業を計画的に実施するなど、教員相互の授業改善に対する意識は高い。今後、それらをフィードバックする方法を工夫したい。
	学習指導の充実	学習方法の指導などガイダンス機能の充実を図るとともに、生徒の学ぶ意欲を高め、学習習慣の確立を図る。	B	学び方の指導も含めて、細やかな学習指導ができた。生徒の学習する様子や成果を認めることで、学ぶ意欲の向上を図ることができた。	
		課題テストや小テストを実施し、「やればできる」ことを生徒に実感させ、家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図る。	B	各教科科目で課題テストや小テストを実施するなど、生徒の学習意欲の向上に資することができた。Google suite for Educationを全校で導入したことにより、個別対応も可能になった。	
		生徒一人一人に対して、生徒の実態に応じた個別指導を徹底し、生徒の学力の定着と向上を図る。学校評価アンケートでの授業満足度100%を目指す。 A：100%　B：90%以上　C：80%以上　D：70%以上 E：それ以外	B	生徒の発達段階や学習の到達状況に応じた丁寧な個別指導ができた。特に、3年次生に対しては、就職指導、進学指導ともに充実した指導ができた。 授業評価アンケートでの評価は、99.1%	
	授業の充実	基礎的基本的な知識・技能が定着するよう、分かりやすく興味が持て、集中して取り組める授業を工夫する。ICT機器の活用や相互授業参観を年に8回実施することにより授業改善を行う。 A：8回以上　B：7回　C：6回　D：5回　E：それ以外	B	Google suite for Educationなど、ICTを活用した授業や課題のやり取りが浸透しつつある。各教科で、生徒の興味関心を喚起し、分かる授業の実践に努めた。相互授業参観実施回数は、9回。	
③生徒指導	指導体制の確立	全教職員の共通理解の下、一貫性のある指導ができる組織的な体制を確立し、指導を行う。毎月1回、年次ごとの指導を行う。	A	教職員全体で共通理解が図られ、生徒一人一人を大切にした生徒指導がなされている。	生徒指導において、教員間での指導に偏りが出ないように、生徒指導の基本方針を全教員に示し、共通理解の下、生徒一人一人の個に応じた指導を引き続き行っていく。 挨拶の意義や周りに与える好影響や好印象などを理解させ、校内外で明るく元気な挨拶ができる生徒の育成に引き続き注力する。 今年度、生徒の大きな交通事故はなかった。しかし、軽微な自転車乗車中の事故はゼロではなく、引き続き交通安全及び交通ルール・マナーの遵守について、指導を継続していく。 今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、地域との連携も大幅に制限された。ウィズコロナ・ポストコロナを見据えた計画を校内で検討し、来年度に生かしたい。 生徒の中には、学校生活や進路等の悩みや不安を抱えている生徒もいる。年次やホームルーム担任、スクールライフアドバイザー・特別支援教育コーディネーターなどと連携を密にして、今後も、生徒一人一人の教育的ニーズに合わせた支援を行っていきたい。
	基本的生活習慣の確立	高校生らしい身だしなみで生活できるように、教育活動全般において継続的な指導を行う。また、しっかりとした規範意識の醸成を図る。身だしなみ指導合格生徒100%を目指す。 A：100%　B：90%以上　C：80%以上　D：70%以上 E：それ以外	A	月1回程度行われる定期の身だしなみ指導、ホームルーム担任による日々の指導や各授業での日常的な指導によって、生徒は高校生らしい身だしなみを維持し、落ち着いた学校生活を送ることができている。	
		出席率の向上を目指し、遅刻や欠席の目立つ生徒への段階的指導を行うとともに、家庭や関係機関と連携し、生活習慣の改善を促す。1か年皆勤生徒150人以上を目指す。 A：150人以上　B：140人以上　C：130人以上　D：120人以上 E：それ以外	B	不登校生徒はおらず、生徒の出席状況は、おおむね良好である。各年次で、主任・ホームルーム担任が生徒一人一人に向き合い、きめ細やかな指導を行うことができた。	
		校内外で活気ある明るい挨拶ができるようにホームルームや部活動等で指導を図る。明るい挨拶と返事ができる生徒100%を目指す。 A：100%　B：90%以上　C：80%以上　D：70%以上 E：それ以外	B	教職員からも働きかけることで、明るく元気な声で挨拶ができる生徒が増えつつある。	
	家庭・地域との連携	本校の生徒指導の方針や取組について、家庭・地域・関係機関に理解していただくとともに、連携しながら指導を行う。	A	各年次団やホームルーム担任は、家庭と綿密に連絡を取りながら生徒一人一人に合わせた指導を行っている。 ホームページ等で積極的な情報発信を行っている。	

※評価は5段階（A：十分な成果があった　B：かなりの成果があった　C：一応の成果があった　D：あまり成果がなかった　E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策（意見）
④進路指導	進路実現	生徒一人一人の進路希望の把握に努め、教職員の共通理解の下、3年間を見通した進路指導を行う。進学・就職とも希望する進路実現100%を目指す。 A：100%　B：90%以上　C：80%以上　D：70%以上 E：それ以外	A	全教職員協力の下、生徒の進路実現のための進路指導やキャリア教育指導が計画的に実施できた。国公立大学の合格者が4名と、近年にない成果を出すことができた。進学・就職ともに進路実現100%を達成することができた。	生徒の進路目標を達成することができ、生徒や保護者から好評価をいただいている。ただし、3年次担任をはじめ、教員個々人の努力に頼る部分も大きく、今後、組織的な小論文指導や面接指導を学校全体のこととして構築していく必要がある。 進路実現について前向きに取り組んでいる生徒がいる半面、まだ自分自身のこととして捉えることができずに、保護者や教員がしった激励しないと自ら行動しない生徒もいる。今後、生徒の意識を前向きにさせる指導を工夫していきたい。 新型コロナウイルス感染症は、来年度も少なからず影響をもたらすと考えられる。広く情報を収集し、生徒にフィードバックできる体制を構築するとともに、諸事業の代替案を事前に考えるなど、対応に努めたい。
	面接指導の充実	就職試験や進学の推薦入試等に対応できるマナー指導や面接指導等を全教職員の理解と協力の下、実施する。	A	挨拶や身だしなみなど、基本的な生活習慣は校内をあげて取り組むことができた。コロナ禍の影響もあったが、工夫しながら面接指導の時間を確保し、成果として表れた。	
	情報提供の促進	進学や就職の情報を本人や保護者に提示し、周知に努めるとともに、進路指導室・進路資料室やホームルーム教室等に、年次に応じた進路資料等を準備し、活用を図る。	B	時期によっては新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、予定していた進路関係の行事を縮小した。しかし、代替案を考え、リモートで実施することなどで影響を最小限にとどめることができた。	
⑤特別活動・ボランティア活動	ホームルーム活動	各年次に合わせた適切なホームルーム活動の主題を設定して、計画的に実施する。	B	各年次で計画的なホームルーム活動が実践できている。反面、クラス独自のテーマ設定時数が少なく、担任の個性を生かしたクラス経営や生徒間の相互理解を深める機会の減少に課題が残る。	人権・同和教育のホームルーム活動や保健に関するホームルーム活動など、地域に根差した実践的な活動ができており、今後も継続し、さらに発展させたい。 生徒会役員選挙や各種学校行事の実施に当たり、生徒は主体的に活動し、取り組むことができた。その分、事前の準備に教員の支援が多く必要な場面もあったが、今年度まいた種が着実に成長して新年度の活動が充実するよう支援していきたい。また、生徒会の組織改変とそれに伴う規約変更を成立させ、活動の充実を図りたい。 今年度もCOVID-19の感染拡大によって、学校行事や部活動、ボランティア活動等に、大きな制約を受けた。科学的なデータに基づいて、生徒の安心・安全が確保された教育活動の実践に、引き続き学校をあげて取り組んでいきたい。 教員のワークライフバランスの実現とともに、生徒のバランスのとれた心身の育成を目指し、より一層、特別活動の在り方を研究し、実践していきたい。
	学校行事・生徒会活動	生徒が学校行事や生徒会活動に主体的・積極的に参加し、教師と生徒が連帯感を持って取り組む諸行事の実施を図る。学校評価アンケートでの学校行事満足度100%を目指す。 A：100%　B：90%以上　C：80%以上　D：70%以上 E：それ以外	B	今年度もCOVID-19の感染拡大によって、学校行事や生徒会活動は大きな影響を受けた。ただし、前年度の経験を生かし、「できること」を生徒と教員が一緒に考え、実践できたことは、別の意味での充実感の獲得につながったと考える。生徒会活動も、たくましく進歩・成長してきた。 学校評価アンケートでの評価は、87%（生徒）。	
	部活動	生徒の健康面や安全面に留意し、好ましい人間関係の育成などに配慮した運営を図る。部活動加入率80%以上を目指す。原則、平常日・週休日に各1日休養日を設け、効率的な運営を目指す。 A：80%以上　B：75%以上　C：70%以上　D：65%以上 E：それ以外	A	今年度もCOVID-19の感染拡大によって、各種大会や発表会が中止や変則的な形になるなど、生徒は大きな影響を受けた。しかし、制限された環境下にあっても、指導者と生徒たちは精一杯、日頃の活動の成果を表現できたと考える。 学校評価アンケートでの評価は、86%（生徒）。	
	ボランティア活動	ボランティア活動参加数延べ1,000名以上を目標に、勤労体験学習や奉仕活動などを積極的に行う。 A：1,000名以上　B：950名以上　C：900名以上　D：850名以上 E：それ以外	C	今年度もCOVID-19の感染拡大によって、ボランティア活動の中止を余儀なくされるなど大きな影響を受けた。制限された環境下にあっても、生徒たちは、工夫して活動を行うことができたと考える。 ボランティア活動参加延べ人数は、242人。	
⑥保健管理	保健活動	学校運営組織の中に学校保健の分野を適切に位置付け、全教職員が役割を分担して活動できる体制を構築する。	B	新型コロナウイルス感染症感染拡大によって、学校保健委員会が書面開催になるなど、影響を受けた。しかし、生徒達は、自分の体調管理をしっかりと行う機会を得たともいえる。	生徒や教職員の心身の健康について、体系的・組織的・継続的な取組や啓発を継続する。 新型コロナウイルス感染症をはじめ、感染症に対する知識や理解を深め、その対策に遺漏ないよう、学校全体をあげて引き続き取り組む。 生徒に防火や防災に関する知識と理解を深めさせるとともに、地域と一体となった取組を学校全体で推進していく。 ゴミの分別が不十分な点があった。ゴミ分別の意義や取組の具体的方法について、より指導を行っていく。
	健康管理	健康診断と事後処置を計画的に実施し、衛生委員会等を通じて全教職員の健康への意識の高揚を図る。	B	職員会議等を通じて、感染症対策に係る知識の共有や健康への意識の高揚ができた。手洗い、手指消毒、マスク着用などの予防も概ね良好であった。	
	安全・衛生・清掃美化	美しい環境づくりと、ゴミ分別の取組をはじめ、学校の教育活動全体を通して、生徒への安全や衛生に関する意識の高揚を図る。	C	感染症感染拡大によって、教職員や生徒の安全や衛生に関する理解や意識は大きく高まった。	
⑦人権・同和教育及び特別支援教育	教職員研修	全教職員が人権・同和教育及び特別支援教育についての意識を高め、指導の力量を身に付けていくための研修を実施する。	B	新型コロナウイルス感染拡大により一斉の研修を実施せず各自で地域の研修などに参加していただいた。主体的に学習することを生徒に指導する立場で自ら学ぶ機会を考えていただく機会になった。	今後も、地域の研修会などへの参加を呼び掛け、教職員の研修の機会を増やしたい。また、そのことで、地域と連携していくことの大切さを教職員に理解してもらい、人権・同和教育ホームルーム活動がより充実した活動になるように図っていく。 また、フィールドワークや聞き取り学習などを計画的に実施し、生徒の主体的な学習活動を促進することで、人権意識のより一層の高揚を図っていく。進路保障においては、差別を見抜く力を養わせ、適正に進路が実現できるように啓発していきたい。
	生徒の主体的な取組	各種の学校行事や人権委員会の活動を通して、生徒の主体性を育みながら人権意識の高揚を図る。	B	人権委員会のフィールドワークや人権・同和教育のホームルーム活動等により、生徒は人権意識を身に付けることができた。シトラスリボン運動により、感染症に係る差別防止についても理解した。	
	進路保障	様々な困難な条件の下にある生徒に対して、家庭・地域・関係機関等との連携を図りながら進路保障の徹底に努める。	B	オンラインでの説明会などを利用し、生徒は進路先について情報を得ることができた。保護者・学校が連携を密にすることで、生徒は各自の進路目標を達成することができた。	
⑧図書・研修	現職教育	教育公務員としての自覚と使命感の高揚に資する研修等、必要な研修を必要な時期に必要な対象者が受けられるように情報を周知するとともに、計画的に実施する。	C	教育公務員として、その職責を果たすための研修を実施できたが、より一層の成果を上げることが必要である。また、ICT機器の活用について、個々の取組が成果を上げた。	教職員の不祥事防止に関する研修を行ったが、今後、人間関係の在り方について工夫し、心地よい職場環境を構築するべきである。 来年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に努めながら、「リモート授業」への対応も準備しておかなければならない。全体での研修会をもう少し簡素化し、身近な単位に落とし込むことで、気軽に教えあえる教職員の雰囲気作りに努めたい。 活字離れや電子本の利用が加速している現状、図書館の活用については、読書の意義や効用について、引き続き生徒に啓発することで、図書館の利用を活性化し、貸出冊数の増加を図りたい。
	教科指導の充実	全教科で授業の研究等を実施し、授業を校内や地域に広く公開することで、教員の指導力や生徒の学習活動の向上に努める。	C	初任者やキャリアアップ研修を中心に校内の研究授業の充実や個々人の各種研修会の参加等によって、授業力の向上に努めた。	
	読書意欲の向上	図書館の環境を整え、読書への興味・関心を高める活動を充実させ、図書館の利用者数や貸出冊数の増加を図る。年間図書貸出冊数1,400冊以上を目指す。 A：1,400冊以上　B：1,350冊以上　C：1,300冊以上 D：1,250冊以上　E：それ以外	E	改めて朝読書の厳格な実施を求めたり、図書館のレイアウトやディスプレーの工夫、新刊図書の購入等によって、図書館の魅力向上に努めた。年間図書貸出冊数は、624冊(1/31現在)。	

※評価は5段階（A：十分な成果があった　B：かなりの成果があった　C：一応の成果があった　D：あまり成果がなかった　E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策（意見）
⑨ＩＣＴ	機器の整備と活用	全教職員が「生徒一人一台端末」を活用した教科指導を実践し、生徒の学力の伸長を促すとともに学習意欲の増進を図る。また、教職員の指導力の向上ために全体的な研修や個別の情報交換を進め、GIGAスクール構想を推進する。	B	ICT機器の整備拡充によって、ハード面の環境は改善された。また、校内研修会の実施によって、ICT機器の活用について、基礎・基本的な知識技能の習得が進んできた。	GIGAスクール構想に係る「生徒一人１台端末」に対応するために、全教職員が端末や関係ソフトウェアを使いこなすことができるように、本校で活用している「Google suite for Education」について、全体研修会や個別研修会を行い、ハード面・ソフト面の両面で理解力や指導力の伸長を図り、より一層実践力を高めていく。 学校公式ホームページをより一層充実させることで、学校や生徒の様子を広く内外に発信する。
	ホームページの整備と活用	ホームページの更新回数を週5回以上とすることでタイムリーな学校の情報を発信し、学校の様子や生徒の活動状況を広く周知する。 A：5回以上　B：4回　C：3回　D：2回　E：それ以外	A	学校公式ホームページは、広く生徒・保護者・地域の方々に見ていただいている。4月から一週間当たりの更新回数は、6.4回。	
⑩教育相談	教育相談の周知徹底	「教育相談だより」を学期に1回以上発行し、教育相談活動の周知と理解を図る。また、教育相談室を活用して気軽に相談できるように工夫する。	B	年5回「相談室だより」を発行し、スクールライフアドバイザー来校日についても毎週SHRで連絡し、生徒も保護者も気軽に相談できる環境づくりに努めた。	今年度は新型コロナウィルス感染症の影響で、教職員研修会がオンライン講座による自主研修となった。できれば過年度のように、本校の実状に応たじ様々なテーマで全体会研修を行いたい。また、現在も支援や助言をいただいている関係諸機関との連携を継続していきたい。
	生徒の状況把握	各年次主任、ホームルーム担任、スクールライフアドバイザーとの連携を密にして、生徒の状況把握に努め、必要であれば早期に対応する。	B	１年次生には心理テスト後、スクールライフアドバイザーを中心に教育相談課で全員と面談し、また年2回実施している「いじめや悩みに関するアンケート」を通して、悩みの早期発見・早期対応に努めた。	
	教職員間の情報交換	問題や悩みを抱える生徒や保護者について、連絡会を設けるなどして、教員間の共通理解に努める。	B	随時関係者での情報交換会や年4回「いじめ防止委員会」を開催した。また「支援会議」の内容は職員会議でその都度報告し、共通理解を図るとともに教職員研修の機会とした。	
域⑪住保連民護携等者と、の地	保護者への情報提供	南高通信やPTA通信の発行、保護者懇談会や家庭訪問などの実施によって、学校での生徒の状況が保護者によく分かるように情報の提供に努める。	B	南校通信等発行や情報機器を活用しての家庭訪問を実施するなどできた。また他の校務分掌と連携してホームページへの投稿などが進んだ。急ぎの情報提供はマチコミ活用して早く情報提供ができた	新型コロナウィルス感染症対策に留意しつつ、生徒の外部との交流参加活動を工夫したい。また、ホームページへの効果的な活用を図り、適切な情報発信を進め、校内の様子など動画の提供なども増やすのはどうかと考える。
	地域との教育活動	地域の行事に積極的に参加・協力したり、地元中学校や公民館等関係諸機関との交流を積極的に行ったりすることで、地域に生き、地域に貢献できる生徒の育成を図る。	C	年度を通して、地域との交流活動が実施できないケースが多くあった。今後は情報機器を活用して遠隔でも参加をする機会を設ける必要がある。	
の総⑫時合産間探社等究・	キャリア教育の推進	「産業社会と人間」「ライフスタディⅠ」「ライフスタディⅡ」に主体的に取り組ませることで、望ましい職業感や就労観を育み、キャリア教育の推進を図る。	C	コロナ禍の影響で実施できなかった内容や実施方法が変更になったりと厳しい状況であった。しかしながら、できることを工夫して展開できたことは、今後に向けての力とすることはできた。	２年次生のLocasの導入や3年次の課題研究等発表会の実施方法など、試行錯誤が続いている。今年度の実践を踏まえて、少しでも改善・向上できるよう、課員一丸となって知恵を出し合い協力しながら頑張っていきたい。
⑬事務管理	親切な応対	来訪者及び電話への応対を親切かつ丁寧に行うことで、生徒や保護者、関係者からの信頼を得ることができるように努める。	A	来訪者や電話への対応は、親切かつ丁寧にできた。新型コロナウイルス感染症対策で来訪者の御理解の下、校舎内の立入を制限させていただいた。	電話対応や来訪者への対応について、親切で丁寧な対応を引き続き実践する。 生徒の安全や感染症対策に係る健康管理に配慮しながら、教育環境の維持改善に努める。
	適切な事務処理等	経費の節約に努め、適正かつ能率的な事務処理を行うとともに、施設や設備の適切な管理運営を行うことで、学校の教育活動の効率化を図る。	B	教育活動を行っていく上で必要不可欠な部分と、節約できる部分を熟考し、予算等を執行することができた。新型コロナウイルス感染症対策も可能な範囲で十分に行うことができた。	

※評価は5段階（A：十分な成果があった　B：かなりの成果があった　C：一応の成果があった　D：あまり成果がなかった　E：成果がなかった）とする。